

沖縄県の観光分野の取組について

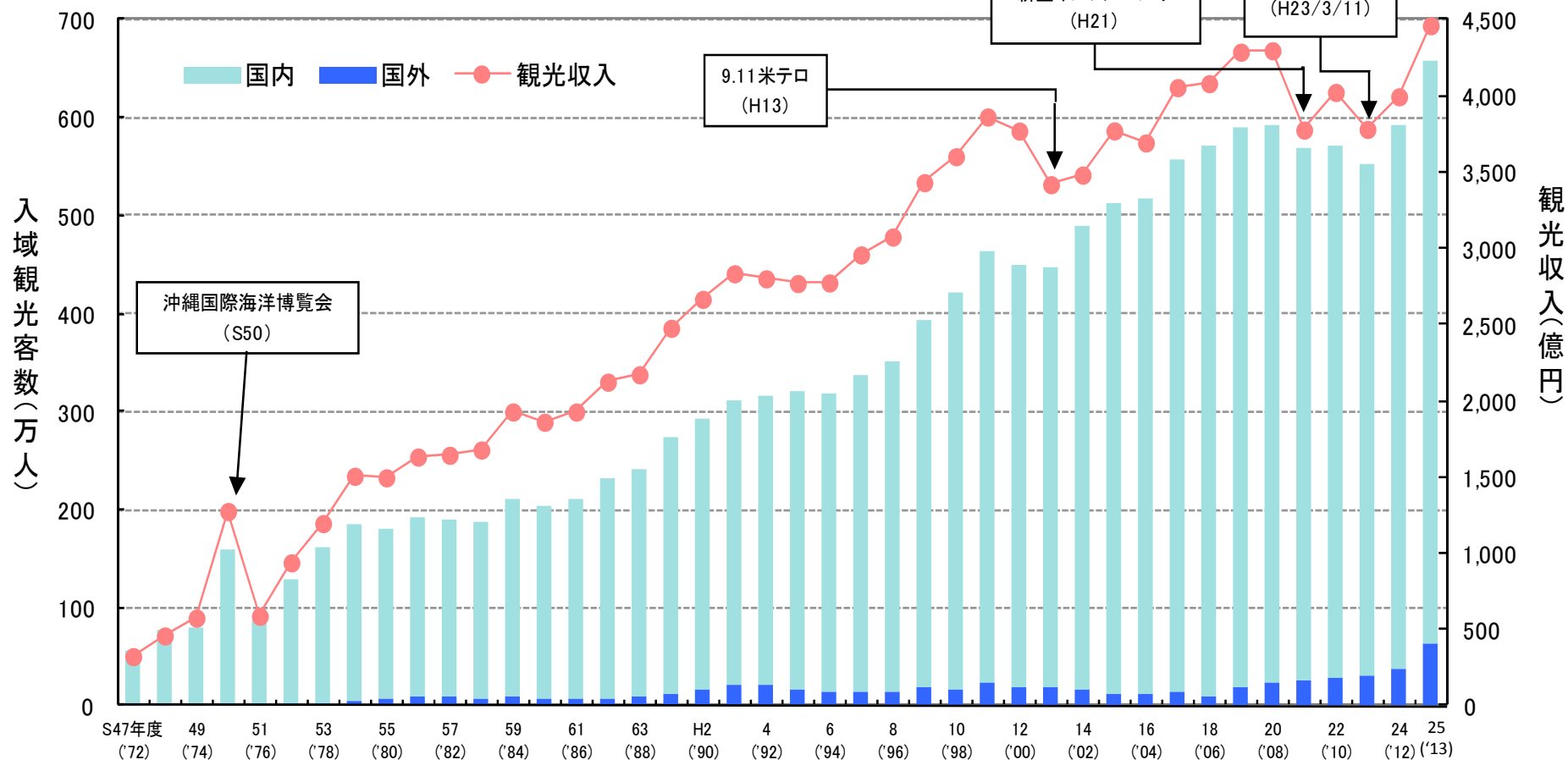
平成26年9月12日



沖 縄 県

入域観光客数と観光収入の推移

【年度】入域観光客数と観光収入の推移



2011年度(平成23年度)
入域観光客数 553万人
観光収入 3,783億円

一括交付金
事業開始

2012年度(H24年度)
入域観光客数 592万人
観光収入 3,997億円

2013年度(H25年度)
入域観光客数 658万人(66万人増)
観光収入 4,479億円(482億円増)

平成24年度及び平成25年度の2年間で観光客数が100万人超の大幅増

1. 外的要因

- ・景況感の上向きによる国内旅行需要の拡大
- ・円安等による外国客の訪日旅行需要の拡大 等

2. 政策的要因

(1) ソフト面

- ・航空機燃料税等の沖縄特例措置の拡充
- ・沖縄振興一括交付金を活用した観光関連予算の大幅増

(2) ハード面

- ・那覇空港国際線ターミナルの供用開始
- ・新石垣空港の開港
- ・那覇クルーズターミナルの供用開始
- ・那覇空港滑走路増設工事の着工

3. 今後の推移予測

上記の政策展開等により、航空路線等の拡充、ホテル立地等民間投資の動きが拡大

⇒今後も観光客数の増加の勢いは続くものと予測

1. 全般的な課題

- (1)年間を通した入域観光客数の平準化
- (2)観光客一人当たり消費額の増加
(EX.観光客平均滞在日数の増加)
- (3)ハード・ソフト両面の受入基盤の計画的な整備
- (4)航空路線、クルーズ路線等の安定確保及び拡大

2. 国内市場

- (1)ボトム期の誘客(沖縄の魅力の創出、発信)
- (2)リピーター等の安定確保、沖縄未体験層の開拓
- (3)個別市場毎(修学旅行、MICE、リゾートウエディング、スポーツ等)
の特性に応じたきめ細かな対応

3. 海外市場

- (1)海外の観光業界及び一般消費者における認知度向上
- (2)潜在的な市場の開拓可能性の追求
- (3)国・地域毎の特性(言語、宗教、生活習慣、商習慣等)の特性に
応じた受入環境整備

【将来像Ⅲ 希望と活力にあふれる豊かな島】 (2) 世界水準の観光リゾート地の形成

ア 国際的な沖縄観光ブランドの確立

●環境共生型観光地づくり支援事業

市町村等の行う観光資源の保全、環境教育及び保全活動等や、環境に配慮した観光施設整備に対する支援等を実施

●戦略的MICE誘致促進事業

①商談会・見本市参加、セミナー開催等の誘致・広報活動、②シャトルバス運行支援、歓迎式典開催・芸能団派遣等の開催支援等を実施

●スポーツ・ツーリズム戦略推進事業

スポーツ・ツーリズムを沖縄に根付かせるためのモデル事業と連携した誘客促進等の実施と新たなスポーツ・ツーリズム受入体制の整備を実施

●芝人養成事業

スポーツ・ツーリズム推進事業の一環であるスポーツキャンプ誘致におけるインフラ整備として、芝管理の専門知識と技術を兼ね備えた人材を養成

●沖縄文化等コンテンツ産業創出支援事業

沖縄の文化等を活用したコンテンツの制作プロジェクトに対して投資ファンドによる制作資金の供給を行うとともに、事業者を対象としたハンズオン支援を実施

●沖縄感動体験プログラム実証事業

沖縄観光閑散期対策として、沖縄独自の地域資源を活用した感動体験モデルの実証事業を行うとともに、沖縄観光閑散期のイメージ改善の情報発信を実施

イ 市場特性に対応した誘客活動の展開

●国内需要安定化事業

シーズンごとにターゲットを設定したプロモーションの展開、旅行商品造成支援、沖縄観光PRイベントの開催、路線拡大のためのタイアップ支援等を実施

●クルーズ船プロモーション事業

①寄港計画策定者の招聘事業等、②展示会出展、訪問セールス等のセールスプロモーション、③入港経費支援、④クルーズ誘致戦略策定等を実施

●修学旅行推進強化事業

修学旅行実施学校に対する事前・事後学習支援、継続実施学校に対する新たなメニュー等の提案・提供、県外説明会、関係者招聘事業等を実施

●沖縄観光国際化ビックバン事業

①航空路線の就航や増便等の促進、②映画・TV等マス媒体も活用した一般旅行者の認知度向上、③セールス活動の拡充、④外国人受入体制の拡充等を実施

●離島観光活性化促進事業

航空路線開設セールス活動助成、旅行会社・航空会社連携キャンペーン、離島観光協会が主体となった地域プロモーション等を実施

【将来像Ⅲ 希望と活力にあふれる豊かな島】 (2) 世界水準の観光リゾート地の形成

ウ 観光客の受入体制の整備

●多言語観光案内サイン整備事業

多言語観光案内サインの統一的な整備、多言語観光案内サイン整備を行う市町村への支援等を実施

●LCC仮設ターミナル交通対策事業

那覇空港貨物ターミナル内に暫定的に設置されたLCC(格安航空会社)仮設ターミナルの交通環境の改善、LCCの新規誘致及び事業拡大を促進する取組を実施

●誰にでもやさしい観光地づくり形成事業

バリアフリーにおける接遇スキルアップセミナー開催と意識啓発を図る取組を進めるとともに、障害者等の観光客の受入れを行っているNPO団体等を支援

エ 世界に通用する観光人材の育成

●世界に通用する観光人材育成事業

観光関連経営者向けセミナーの実施、観光関連企業・団体等が実施する従業員向けの研修事業及び語学研修への支援を実施

●沖縄特例通訳案内士育成等事業

外国人観光客に対する通訳案内士の絶対的不足に対応するため、『沖縄特例通訳案内士(外国人観光客への外国語による通訳案内)』の育成研修を実施

オ 産業間連携の強化

●地域観光資源創出支援事業

新たな観光資源を活用したモニターツアー実施に対する費用の一部補助、観光メニュー開発のためのアドバイザー派遣、啓発セミナー等の開催等

●アーツマネージャー育成事業(仮称)

文化芸術をマネジメントできる人材「アーツマネージャー」を育成するため、ニーズ調査、講座プログラムの作成及び実証的な講座やシンポジウムを開催

1. 全般的な取組

- (1)各種調査分析のデータ等を活用し事業内容を改善
(沖縄観光マーケティング調査⇒海外誘客の重点市場等を設定)
- (2)関係団体からの政策提言等の反映
(沖縄観光コンベンションビューロー専門委員会等)
- (3)市町村事業との役割分担
 - ①県 の 役 割: 県外・海外への全県的な情報発信、受入体制整備に関する先導的、統一的、全県的な取組等
 - ②市町村の役割: 上記以外の地域の実情に応じた観光施策

2. 個別事例

(1)世界に通用する観光人材育成事業

①課題

人材育成の必要性を感じつつも、社内の人材育成に時間と経費をかけられない観光関連企業等に対し、研修を実施しやすい仕組みに変更する必要がある。

②対応(改善)

従来の助成方式から派遣方式に変更し、事務局による相談業務の強化、研修メニューの提供、通年を通じた研修の実現等により、県内観光関連企業等が受講しやすい環境を整備する。

一括交付金事業の効果について①

①国内市場関係

成果指標名	目標値	実績値
タイアップ旅行商品による県外からの誘客数	100,000人	144,516人

【国内需要安定化事業】 H25予算:7.3億円 H26予算:6.9億円

事業概要：季節ごとに沖縄への観光誘客ターゲットを特定した上で、WEBや各種メディア等を活用したプロモーション活動を行う。また、航空会社と連携し、路線拡大や需要喚起を目的とするイベントや航空会社が持つ各種媒体等などを活用したプロモーション等を行う。

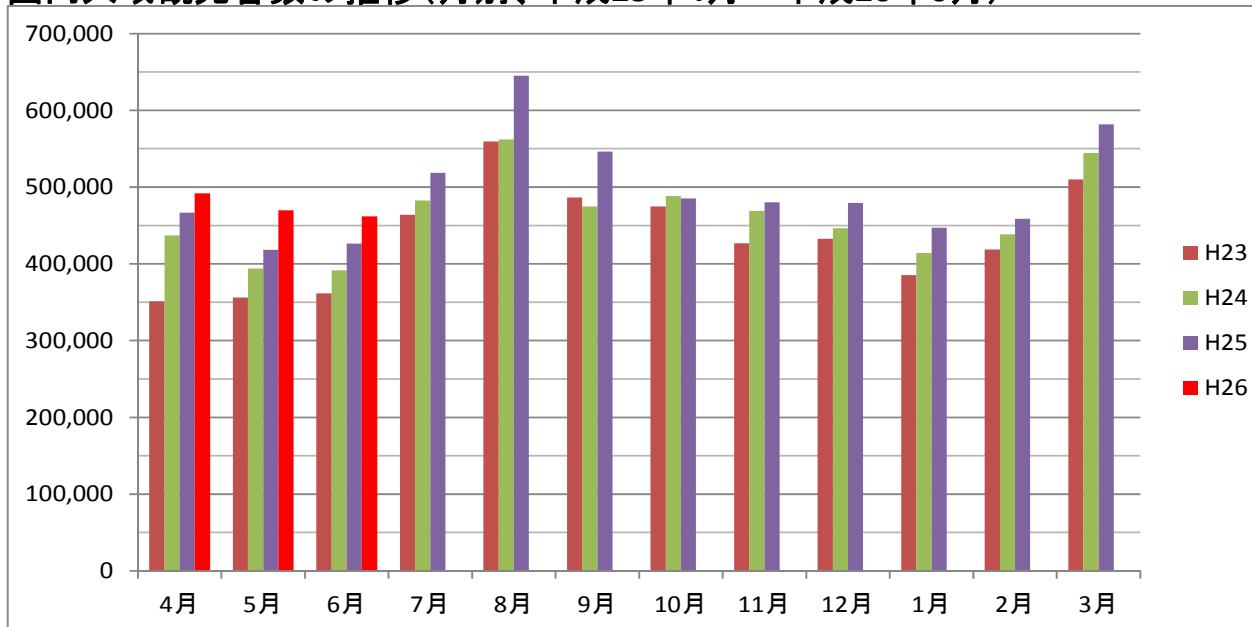
旬の香りに出会う。旬の空気にふれる。沖縄×島巡り

旬香周島おきなわ

多くの島々からなる沖縄県。その島々と、春・夏・秋・冬の季節ごとの魅力＝「旬」を紹介するキャンペーンが「旬香周島おきなわ」(通称:しゅんおき)です。

家族と楽しむ真夏のシュノーケリングや、心も体も癒やされる秋の夕暮れ、夫婦で愛でる日本一早い冬の桜や、爽やかに潤う春の草花など、まだまだ知られていない様々な季節ごとの沖縄の魅力とその過ごし方を、沖縄の島々から皆様にお伝えします。

国内入域観光客数の推移(月別、平成23年4月～平成26年6月)



【その他関連施策】



一括交付金事業の効果について②

②海外市場関係

成果指標名	目標値	実績値
国際定期便数	60便／週	78便／週

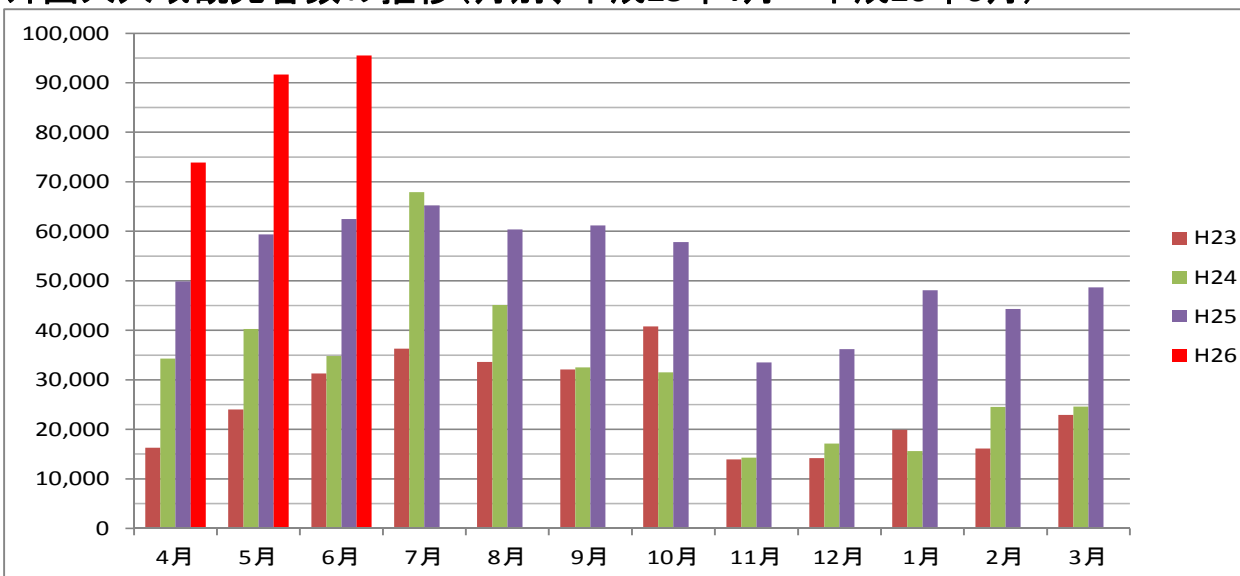
【沖縄観光国際化ビッグバン事業】 H25予算:27.9億円 H26予算:24.9億円

事業概要：外国人観光客数の拡大を目的に、①航空路線の就航や増便等を促す交通アクセスの拡充、②映画やTV等のマス媒体も活用した一般旅行者の認知度向上、③セールス活動の拡充によるビジネスチャネルの強化、④県内の外国人受入体制の拡充等を実施する。



グローバル観光ブランド
「Be.Okinawa」による海外展開の
推進

外国人入域観光客数の推移(月別、平成23年4月～平成26年6月)



【その他関連施策】



一括交付金事業の効果について③

【地域観光資源創出支援事業】 H25予算:0.4億円 H26予算:0.5億円

事業概要：市町村、観光協会、NPOといった地域が取り組む新たな観光資源の創出及びこれらを活用した観光メニュー造成事業を公募し、実施委員会による審査の上、提案事業に対する経費補助、アドバイザー派遣、事業実施者を対象とした講座・ワークショップの支援を行う。

採択事業一覧

事業体名	概要	交付金
NPO法人首里まちづくり研究会	王都首里の琉球王朝時代から残る遺構、空間、雰囲気会場として活用し、日没前後の時間帯に、怪談、伝説話を中心とした物語講話会を着地型観光コンテンツとして実施	5,567千円
NPO法人美ら海振興会	那覇空港との近接性、多種多様なサンゴ礁のある波の上地域の特色を活かし、那覇のサンゴ礁についての環境学習、シュノーケリング・体験ダイビング、サンゴの植え付け体験、オリジナルポストカードによる「海のポスト」への投函を組み合わせた体験プランを実施	3,784千円
NPO法人雄飛ツーリズムネットワーク	金武町の自然資源を活用した各種体験プランに、福祉系専門学校や装具提供事業者との連携により、身体的理由から旅行離れしていた方や家族(三世代)と一緒に参加できる着地型プラン創出に取り組む。	3,582千円
共同事業体 沖縄まちまーい (幹事団体:那覇市観光協会)	県内各地で実施されるまち歩き(まちまーい)メニューの開発 3つのカテゴリーを設け、10市町村14コースのモニターツアーを実施	5,310千円
一般社団法人読谷村観光協会	20～40代の歴史に関心の高い女性をターゲットに据え、むら咲きむら及び読谷村内ガイドツアープログラム、歴史舞台といった内容のプログラムを造成	4,812千円

③その他個別事項

(1) 航空路線提供座席数

平成23年度：国内線	824万席	海外線	33万席（45便／週）
平成25年度：国内線	908万席	海外線	108万席（78便／週）

(2) クルーズ船寄港回数

平成23年度：111回
平成25年度：126回

(3) 個別市場

① リゾートウエディング実施件数

平成23年：8,872組	平成25年：10,921組
--------------	---------------

② MICE開催件数（参加者数）

平成23年度：486件 （66,195人）	平成25年度：557件 （89,831人）
--------------------------	--------------------------

③ スポーツコンベンション等件数

平成23年度：453件	平成25年度：578件
-------------	-------------

1. 沖縄観光推進ロードマップの策定

沖縄観光が平成33年度の目標値として掲げる、入域観光客数1,000万人、観光収入1兆円等の達成に向けた誘客戦略及び受入体制の構築について、官民一体となって中長期的、段階的に施策を推進するため策定する。

2. 観光危機管理の推進

台風や地震、津波等の災害から、観光客の安全・安心を守り、災害後の観光産業の事業継続や早期復興を支援する仕組みを構築するため、平成26年度に都道府県で初となる観光分野に特化した「沖縄県観光危機管理基本計画」を策定し、官民一体となった取組を推進する。

3. 国家戦略特区の活用

世界水準の観光リゾート地を整備し、ダイビング、空手等の地域の強みを活かした観光ビジネスを振興するとともに、沖縄科学技術大学院大学を中心とした国際的なイノベーション拠点の形成を図ることにより、新たなビジネスモデルを創出し、外国人観光客等の飛躍的な増大を図る。